



MORI-YAMA-EN

りんごの方舟プロジェクト

～地方から日本を再び輝かせる～

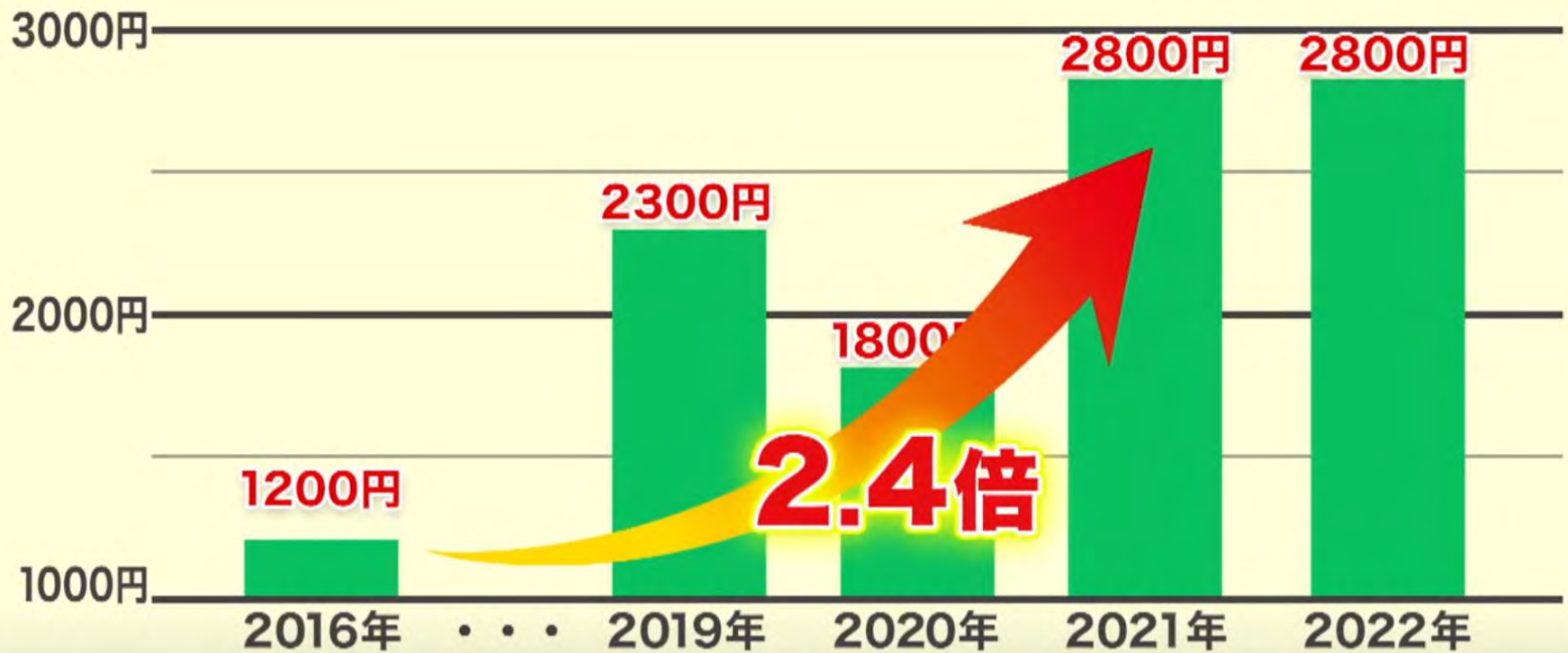
もりやま園株式会社
代表取締役 森山聡彦

これまでの取り組み

- Agrion果樹の開発と事業化
- テキカカシードルの事業化
- スマート農業の実証



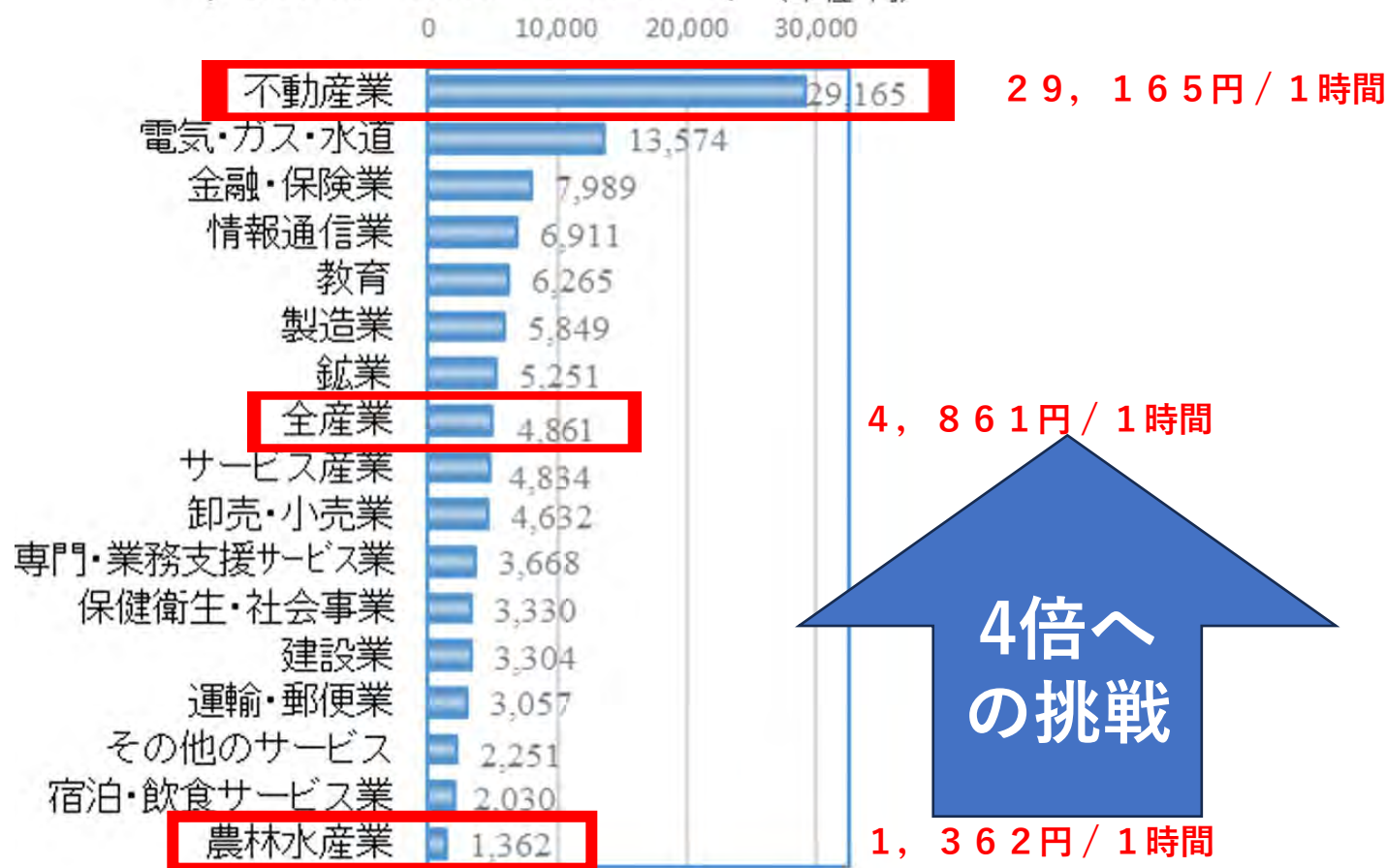
労働生産性の変化



課題：2030年代への備え

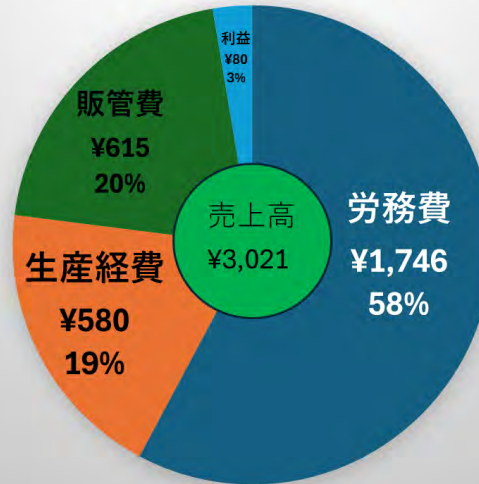
- 最低賃金：1500円／時以上
- 労働生産性：3,000円／時未満 → 廃業
- 気候変動、人材不足、資金調達難
- 国内消費者に適正価格の供給が困難に
- 食品加工業は原料不足で廃業の危機

産業別 名目労働生産性
(2021年／就業1時間当たり) (単位:円)

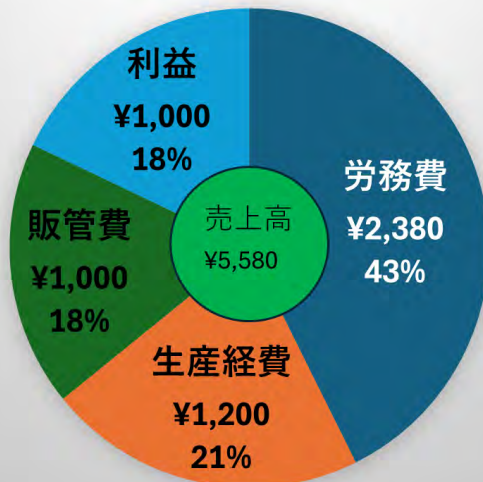


1 時間当り売上高に占める経費

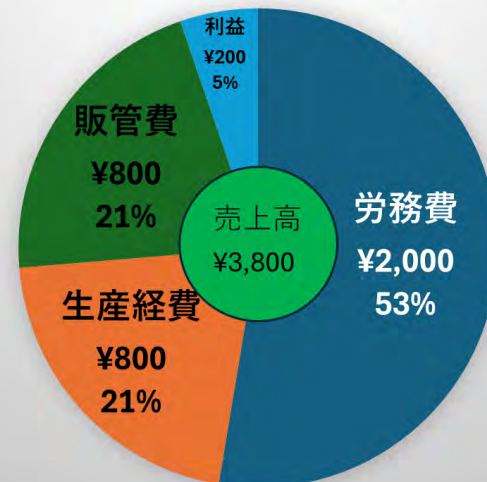
2024年もりやま園生産部門



2030年の目標値



2030年の廃業境界域



解決策：稼ぐ農業への転換

- 高密植＋機械化で労働生産性を5,000円/時以上へ
- 既存10haで生食用を継続
- 新規20haで加工用りんごの安定供給
- 国内消費者と加工業を守る基盤づくり

日本

労働生産性が低い



- マルバ開心形の園地
- 梯子、手籠、りんご箱

- 労働118時間／トン
- 1,692円（売上高／時間）

南チロル地方(伊)

生産性向上



移動式プラットフォーム

- BINコンテナ
- フォークリフト

- 労働9.6時間／トン
- 12,552円（売上高／時間）

ビジョン：りんごの方舟プロジェクト

- 生産から加工原料供給まで一貫
- 農業法人＋食品加工業＋研究機関＋IT企業の連携
- 国内の食を守るモデルとして全国展開可能

『地方から、日本を再び輝かせる』

- 国内の消費者と食品加工業を守り抜く
- 農業の構造改革は食と地域の未来を守るために不可欠
- 共に挑戦を！